

# 株式会社日本教育資料 「給食指導について」調査報告

## 【調査の目的と概要】

### 1. 目的

株式会社日本教育資料では、先生のために給食指導の情報を分かりやすくお伝えする WEB メディア「月刊給食指導研修資料 | きゅうけん」を運営している。その中で、現役で保育園・幼稚園・学校の先生として働いている方を対象に「給食指導について」と題したアンケート調査をインターネット上で実施した。

### 2. アンケート実施日・実施方法

2022年6月・インターネット調査

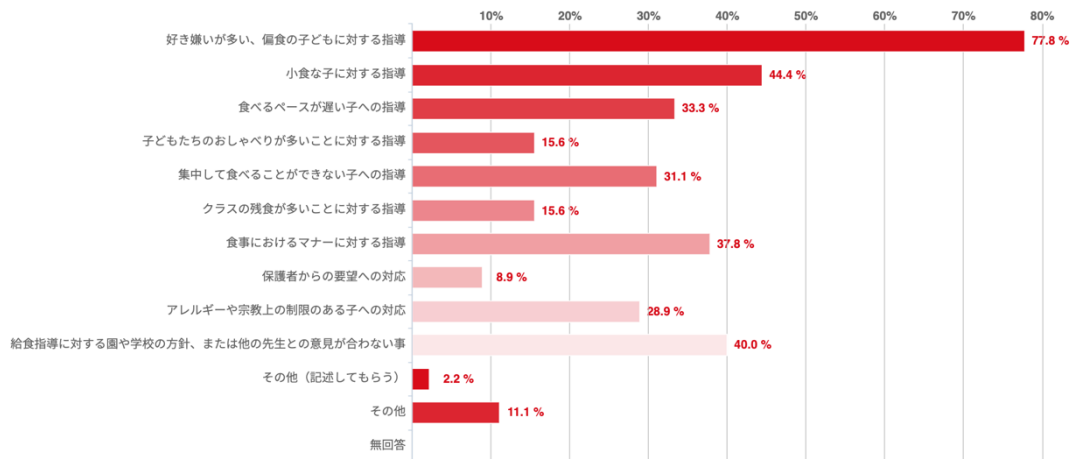
### 3. 対象者と回答数

「きゅうけんマガジン（無料メール・LINE マガジン）」会員を母集団とする 45 人（男性 4 人、女性 41 人）。

## 【調査結果】

設問 1. 「給食指導において苦労している点について、以下に当てはまるもの全てを教えてください（複数回答可）」

### 回答結果



### 上位3回答抜粋

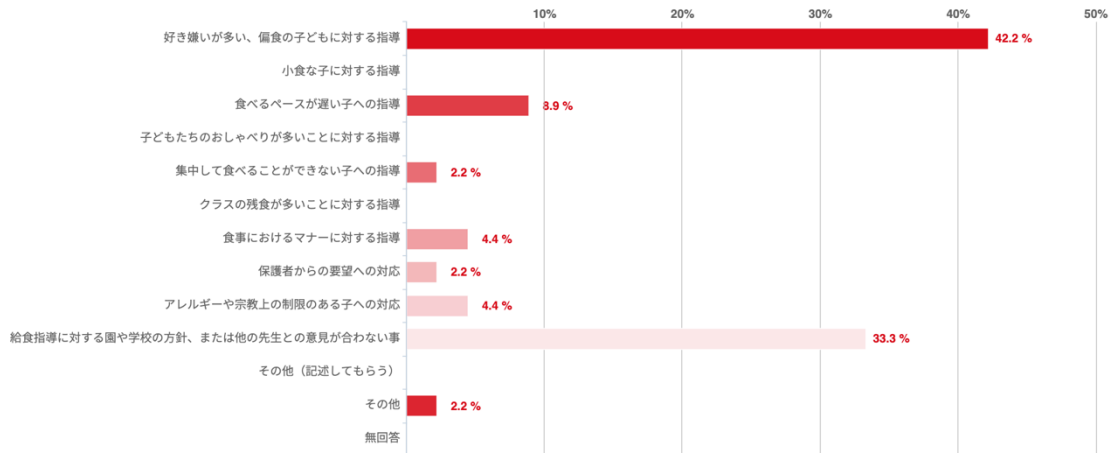
1.好き嫌いが多い、偏食の子どもに対する指導…77.8%

2.小食な子に対する指導…44.4%

3.給食指導に対する園や学校の方針、または他の先生と意見が合わない事…

40.0%

## 設問 2. 「給食指導で 1 番苦労していることは何ですか？（1 つ選択）」



### 上位 3 回答抜粋

1.好き嫌いが多い、偏食の子どもに対する指導…42.2%

2. 給食指導に対する園や学校の方針、または他の先生と意見が合わない事  
…33.3%

3.食べるペースが遅い子への指導…8.9%

### 設問 3. 「これまで給食指導の場面での失敗談があれば教えてください。」

（自由記述・任意回答）」

#### 回答結果

家で食べる好きなものも園では食べず  
押したり引いたりしてみたが  
結局、配膳前に嘔吐するようになってしまった

女 50～54歳

食器を持って食べるということや、箸を上手に持てない子や、姿勢が悪い子に対して、食事中に注意や指導すること、楽しく食べること、どちらを優先すればよいかと聞かれて、ハッキリとした答えができなかったこと。楽しく、をベースにと話しているけれど、それでよいものかと思った

女 40～44歳

牛乳が苦手な子が後で牛乳のアレルギーがあるとわかった。

女 45～49歳

嫌いな物を自分から食べた子が嘔吐した。

女 50～54歳

大規模園にいたときに、自分に、自信と余裕がもてず、無理な給食指導をしてしまった時です。はっきりと自分の意見をのべて、他職員への周知と、子どもに寄り添った指導ができていればと今でも悔やんでいます

女 35～39歳

食べるのに時間がかかっている子どもに時間が来たら別の場所に引っ越しして食べさせていたこと。

男 30～34歳

体のために残さないで という声かけをしていたこと。

女 25～29歳

学期はじめの職員会議で4時間目終了後すぐに給食の準備にとりかかってほしいという願いをしたら栄養教諭の分際で！と管理職から反感を買いました。以後、「4時間目終了時にチャイムを鳴らしてほしい。」とお願いするようにしています。

女 50～54歳

年長クラスの嫌いだから食べないという子に、普段から、昨日まで苦手でも気分や体調で変わる事もあるから、もしかしたら今日はおいしく感じるかもよと話していて、1口食べた後に自ら「今日はイケるよ」といって完食した子がいました。次の時に食べたくないと言っているのに「この前食べられたから今日も美味しいかもよ？」と押し過ぎました。それからしばらく「絶対食べない！」と頑なになってしまい、前回食べたからと今回もと期待しすぎ、失敗しました。

女 45～49歳

今はありませんが、6、7年前までは、「完食すること」が良い雰囲気保育者が保育者にあり、いかに子どもをだまして口に入れるかが保育技術のように頑張っていました。

女 55～59歳

子どもが『お腹痛い』と言った時に、嫌いで食べたくないだと思って『大丈夫。お野菜食べたらお腹痛いのも治るよ。』と言って食べさせたら、翌日に、本当に体調不良で保育園をお休みした。子どものことをちゃんと見て無かったことを反省したので、次からは、担任の先生に一声かけて相談する様にした。

女 50～54歳

担任の行きすぎた給食指導を黙ってみているしかできなかった	女	35～39歳
なかなか食べ進まない年少さん。スプーンに乗せて口に運んだらパクッと食べた物の、なかなか飲み込めず、他の子の対応している間も、ずっと飲み込めず、自分でお茶を飲んだりして飲み込もうとしても飲み込めず涙目になっている事に気づいて、吐き出させました。	女	55～59歳
「苦手な食べ物だったんだね。気づかなくてごめんね」と謝りました。かわいそうな事をしちゃったなと思いました。先に食べられるか、苦手なのか？聞いてあげればよかったと思います。		
フリーとして入っていた0歳児クラスで、担任が食べる量や食べ方に厳しく、その子はほとんど給食を食べなくなってしまった。保護者にも、毎日のように食べなかった事を伝えていて、保護者も精神的に不安定になってしまった。	女	50～54歳
特になし	女	35～39歳
アレルギー食を間違えて食べた。	女	35～39歳
小学1年生が3本目の牛乳をお代わりしたのを止めきれず、飲みたがるままに飲ませたら、ご馳走様の直後に戻ってしまったこと。その後、当人は飲み過ぎたり、食べ過ぎたりする事はなく卒業していきしましたが、今でも無理にでも止めておけば良かったのではないかと思います。	女	45～49歳
ことばがない子に完食するまで終われない指導をせざるを得ないこと。発語がない彼には拒否権がなく教師の指導に従わざるを得ない場面に心が痛みます。私自身も給食の時間がかなり苦痛。クラスの経営方針に合わざるを得ず疑問を持ちながら指導をしている。食べることを強制されている子どもも嫌だと思う。1時間以上食事指導に使うため自分たちは冷え切った昼食を胃に流し込む日々です。	女	25～29歳
子どもたちの盛り方が少なく、残しが多くなってしまった。	女	45～49歳
特には、思い出せないです。	女	55～59歳
乳児クラスで嫌いなものを頑張る基準が先生と違い頑張っってひと口食べたので頑張っって食べたねと嫌いなものを避けておいたら後からクラスの先生が食べさせていた。	女	35～39歳
子どもの様子に合わせて無理なく進めていたところ、偏食が減らなかったが、他の先生に変わった途端食べるようになった。	女	35～39歳
無理だったら残して良いよ、と声掛けしたらそれ以降食べられる物も無理と言われるようになった。	女	40～44歳
周りに比べて、食べる量が少ない、スピードが遅いことで、促したり急かしたりしてしまった	男	35～39歳
スプーン フォークが上手もちのこどもに箸を使わせた事	女	30～34歳
指導観が全く合わない教師指導法を目の当たりにした時、平行線のまま泣いても無理矢理食べさせる児童を守れなかった	女	50～54歳

## 設問 4. 「給食指導において、自分なりのコツや工夫していることがあれば教え

てください。（自由記述・任意回答）」

### 回答結果

無理に食べさせない。自分もおいしく食べる。楽しい雰囲気になるよう心がける。	女	45～49歳
食べられないことを注意しない	女	50～54歳
ADHDの傾向ありの偏食の多い子がいるのですが、半個室スペースを作って、保育者が一人ついてじっくり関わるようにしています。普段、白米しか食べたがりませんが、一対一ならでは、子どもの様子をじっくり観察でき、どういものが苦手、どういものだと得意なのか考えられました。ソース類が苦手の味覚過敏だ。じゃあ調理室でソースを別添えにしてみらおう。等、発見できたのでよかったです！小規模園のわりに職員が多い園なので可能だったのもあります	女	35～39歳
食べる食べないを子どもがどれだけ小さくても選択できるようにしている。 また、一口までいかなくても触るや臭う、口に触れるなど食べないの一言で終わらせないようにしている。	男	30～34歳
おかわりをお店やさん風にやり取りする 食べない時は一口ぐらいのコロコロおにぎりにしてみる 気の合う友達と一緒にテーブルにする 給食後の遊びで気持ちを前向きになど	女	50～54歳
実際にピーマンが嫌い食べられなかった保育士さんがここ数年でピーマンの美味しさに目覚めたのを目の前で見てるので、ときどきその話をしています。実際に自分の知っている保育士さんがそうだと聞いて、たまに食べてチャレンジした子もいました。	女	45～49歳
私は園長なので、時々給食中に子どものところに言っは「今日のお肉おいしそうね」と声をかけたり、食べれなくて困っている子には、「そういう日もあるよね」と寄り添うように心がけています。	女	55～59歳
『皆んなが収穫してくれたピーマンよ。』など、興味を持ってくれる様な声かけを心がけている。 親指と人差し指をくっつけて、丸くして単眼鏡の様に、子どもたちを覗いて見る。『あれ??』と言いながら声をかけると興味を持って聞いてくれやすい。 『〇〇ちゃんがお口に入れるところ、見たいなあ。』『〇〇ちゃん、食べたらどんな味がしたか教えて』『先生（私のこと）、これ大好き。』などと言うと口に入れてくれやすいです。	女	50～54歳
子どもの声をよく聞いて、一緒に考えること。少しだけしか食べられなくても、『少し食べられたね!』と肯定的な声かけをすること。	女	35～39歳
きゅうけんで学んだ内容を、給食のおたよりで知らせたり、会議で少しずつ伝える 子供の様子をなかなか見にいけないので、先生と話をするようにする。	女	40～44歳

子ども自身に食べる量を決めてもらう→ 一口でも食べたら喜びその様子を保護者にも伝えていく。	女	30～34歳
無理強いはいしない。 小食な児童にも楽しんでもらえるよう、好きなメニューを聞いて献立に取り入れている。 保護者の方も悩んでいる場合が多いので、保護者の方と話をしている時間をとっている。	女	50～54歳
食べる子が遅い子、偏食がある子などに対して「においだけでもいいよ」「食べれるところまでで大丈夫だよ」など子供が、食べることに苦痛に感じないよう、温かい言葉かけを意識して対応している。	女	25～29歳
残食の多いものや葉野菜は細かく切ったりハムやカレー味など興味を持ってくれるよう工夫している	女	20～24歳
自分が知り得たことはとりあえず全職員に広めること	女	45～49歳
子どもが自分で食べている時には、あまりあれこれ声かけをしない。	女	50～54歳
特に低学年では初めに少なめに盛る。残してもいいよ、と言う。食べられたら教えてね、と言って、教えにきたら大袈裟に喜ぶ。お代わりは、多め、少なめ、普通から申告させる。	女	35～39歳
調理場勤務なので、受配校の児童生徒に顔を覚えてもらうべく、食育授業&週1は給食指導に入るようにしている。	女	55～59歳
時間設定をして、ダラダラ食べさせない。	女	35～39歳
まずは仲良くなることから。給食側の人間なので、苦手と言いつらそうな子供たちが多く。苦手なものを伝えてもらいやすい関係作り。	女	25～29歳
給食時は各クラスに行き苦手なものがある子と脚を触ったり体勢が崩れている子を重点的に声かけをおこなったりしている。 副菜類は野菜だけにならない様にツナやシラス、ハムなど味が出るものを一緒に入れる様にしている。	女	35～39歳
こども達が自発的に給食をたべられるような声かけ	女	35～39歳
よく、食べやすいと思ってご飯とおかずを一緒にスプーンに乗せて食べさせようとする先生もいますが、混ぜる事が苦手な子もいるので、個々にどういう事が苦手か把握するように心がけている。 また、食べない事を怒るのではなく、食べてみようかな？と言う気持ちになるような楽しい声かけをするようにしている。 それでも食べられなかったら無理に食べさせない。「いつか食べられるようになったらいいね。きっとそんな日が来るよ」と声かけして終わりにする。	女	55～59歳
保護者に家での食事の様子。食材の切り方や味など細かく聞き、近づける。 子どもと話をしながら食べる(食べさせる)	女	45～49歳
園児の食事の様子をよく観察する 何の食材が使われているか園児に当ててもらいように声掛けする よく噛んで食べてねをジェスチャーする	女	45～49歳

ある程度の好き嫌いは許容する。無理強いはいしない。残すのは悪いことではない。教室を回るときは笑顔で、美味しいね、楽しいねという雰囲気づくりをする。集団での指導と個別の指導を組み合わせるといった事を心がけています。ただ、ふざけていて食べ物を粗末にしたり、無駄にしたりする時は真面目に話をします。

女

45~49歳

すぐに満腹を感じ、食事が進まなくなってしまうため、お腹が空いている状態の時に苦手な食材にチャレンジさせてみる。

個々の進み具合を見ながら、大きさや柔らかさを調整する。

女

40~44歳

食べ方の練習も大切にしながら、ある程度は手を出し、いろいろな食材にふれてもらい一口でも多く食べてもらえるようにする。

ありません

女

25~29歳

量を指導するようにしている。  
豆知識的に栄養の話をするようにしている。

女

45~49歳

子ども達とのつながり、人間関係作りが第1と考えている。とにかく信頼関係を上手く構築すること。

女

55~59歳

食べるのが苦手な子にはあえて少量にし、食べられた達成感やお代わりをした喜びを感じられ様になっている。

女

35~39歳

楽しい時間になるように、まずは本人の気持ちに寄り添い、無理なくすすめる。

女

35~39歳

無理強いはいしない  
進級・就学をゴールと捉えず、今その子のできる範囲で無理なく食べられるよう心がけた

男

35~39歳

楽しい時間にする

女

30~34歳

給食を人前で食べる行為は自己表現でもあり、緊張を伴う苦痛を感じる子どももいる 食事は楽しい時間にする リラックスして「おいしい」を感じさせる 食べなくても食べ物を通じておしゃべりする

女

50~54歳



## 【調査結果のポイント】

・「給食指導において苦勞している点」の設問に対しては「好き嫌いが多い、偏食の子どもに対する指導」の回答が1番多く「給食指導で1番苦勞していることは何ですか？」の設問に対しては「園や学校の方針、周りの先生と意見が合わないこと」が2番目に多いことから、指導方針や価値観の違いが強いストレスになっていることが推測される。

・給食指導における失敗談として、①ご自身の指導についての失敗エピソードに類する回答②周りの先生との関わりについての回答③子どものペースを尊重しすぎて食べなくなってしまったという類の回答が目立った。

・給食指導において、自分なりのコツや工夫に対しては、①無理強いをしないということに関する回答②スモールステップやその子に応じた対応をしようとしているということに関する回答③子どもとの関わりを大切にすることに関する回答が目立った。

・失敗談として「子どものペースを尊重しすぎて、食べなくなってしまった」という類の回答をした方は、日々の給食指導における工夫やコツに関しては未

回答であり「偏食の子に対してどうすれば良いか」などについて、園や学校での情報共有が不十分であることも推測される。